
真実を知ってください
エクスタシー
X
ハグ
ラブドラッグ
XTC
E
ビーンズ
jp.drugfreeworld.org

この小冊子が制作された理由

薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。学校や街中、インターネットやテレビで。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

薬物に関して耳にするほとんどのことが、実は売人からのものなのです。かつての売人たち曰く、「買わせるためならどんなでたらめでも言う。」

薬物についての実態と真実を知ればまともな決断を下すことができます。この小冊子は、そのために制作されたものです。あなたのために。

あなたのご意見、ご感想は貴重です。ですからこの小冊子について感じたことをお知らせください。**jp.DrugFreeWorld.org**にアクセス、または**info@drugfreeworld.org**までEメールでご連絡ください。

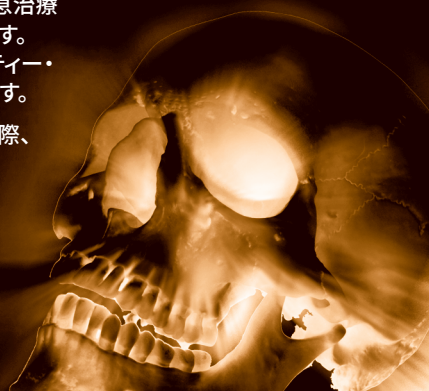


死とのダンス？

悲しいことに、エクスタシーは若者の間で最も人気のある薬物の1つであり、しばしばレイヴ（ダンス音楽を一晩中流す大規模な音楽イベント）やエレクトロニック・ダンス・ミュージックと結び付けられます。

国連薬物犯罪事務所は、世界中で1年間に約2,000万人がエクスタシーを使用していると推定しており、世界中の病院の救急治療室でエクスタシーに関連する死亡例が多く報告されています。最近では、MDMA* の使用はレイヴを超えて広がり、パーティー・ドラッグとして、より幅広い層の若者たちに消費されています。

アルコールと混ぜると、エクスタシーはより危険になり、実際、命にかかわることさえあります。



* MDMA：気分や知覚を変化させる、違法な人工薬物の化学名の略称で、化学的に興奮剤と幻覚剤の両方に似ているもの

本当にパーティーをしたい？

ニッキは、レイヴに行く多くのティーンエイジャーたちと同じでした。彼女は問題から逃れ、楽しみたかったので、友達と一晩中パーティーをする計画を立てました。彼女の友達の1人が車に液体エクスタシーのボトルを持っていて、みんなでそれを少し摂取することにしました。すぐに薬物が支配しました。ニッキは普段の限界をはるかに超え、何時間も踊り続けました。

後に友人が警察への報告でこう言いました。「ニッキは何も感じていませんでした。」

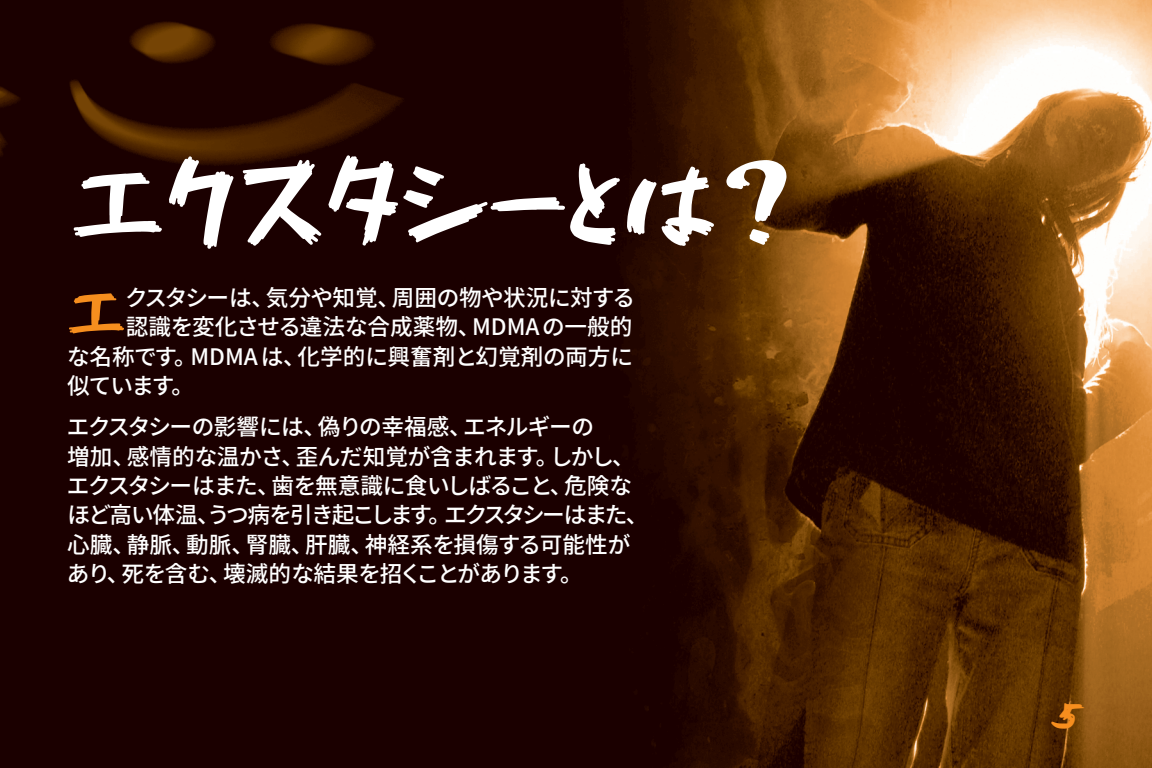
翌朝、ニッキは亡くなっていました。原因：エクスタシー中毒。

「でも、そんなことは自分には起こらない」と思うかもしれません。そうかもしれませんが、そんなリスクを本当に冒したいですか？

エクスタシーとは？

エクスタシーは、気分や知覚、周囲の物や状況に対する認識を変化させる違法な合成薬物、MDMAの一般的な名称です。MDMAは、化学的に興奮剤と幻覚剤の両方に似ています。

エクスタシーの影響には、偽りの幸福感、エネルギーの増加、感情的な温かさ、歪んだ知覚が含まれます。しかし、エクスタシーはまた、歯を無意識に食いしばること、危険なほど高い体温、うつ病を引き起こします。エクスタシーはまた、心臓、静脈、動脈、腎臓、肝臓、神経系を損傷する可能性があり、死を含む、壊滅的な結果を招くことがあります。



MDMAは、1912年にドイツの製薬会社メルクによって初めて開発されました。1950年代、アメリカ陸軍とCIAは、心理戦のテストでMDMAを使用しました。1960年代には、「抑制*を低下させる」治療薬として再登場しました。

1970年代までに、MDMAはパーティー・ドラッグとして使われ始めました。1980年代初頭には、「化学を通じて幸福を追求する中で最もホットなもの」として宣伝され、週末の多くのパーティーで「流行のドラッグ」となりました。1984年当時はまだ合法だったMDMAは、エクスタシーというブランド名で販売されていましたが、1985年には安全性への懸念から禁止されました。

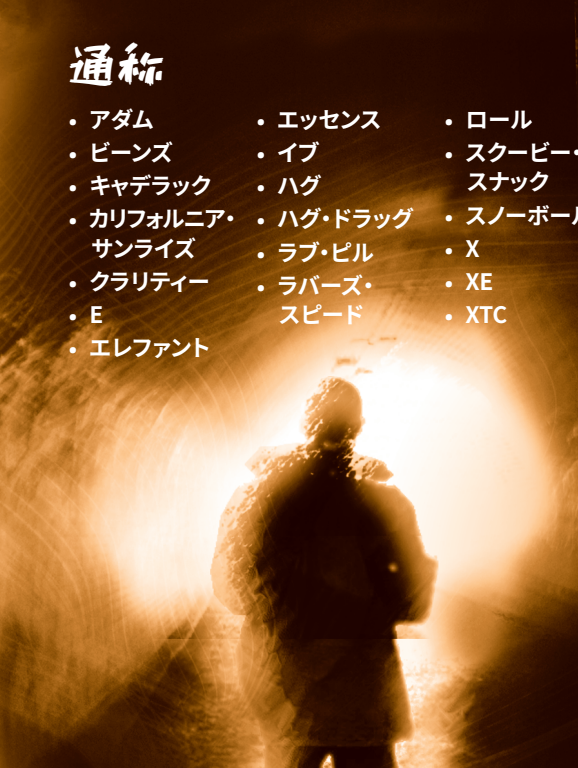
1980年代後半以降、エクスタシーはMDMAとして販売されている薬物のマーケティング用語となりましたが、それにはMDMAがほとんど、あるいは全く含まれていない可能性があります。今日のエクスタシーには、LSD、コカイン、ヘロイン、アンフェタミン、メタンフェタミン、さらには殺鼠剤や犬用の駆虫薬のような物質を含む薬物の混合物が含まれていることがよくあります。売人が錠剤にかわいいロゴを付けていても、使用者は自分が何を摂取しているのか分からず、ハイを追い求めてさらに摂取することで、リスクが高まります。

エクスタシーは通常錠剤ですが、注射することもできます。液体エクスタシーはMDMAではありません。それはGHBで、排水管洗浄剤、床用剥離剤、脱脂溶剤といった危険な化学薬品から作られた抑制剤です。

* 抑制：人が何かをするのを止める傾向にある考えやルール

通称

- アダム
- ビーンズ
- キャデラック
- カリフォルニア・サンライズ
- クラリティー
- E
- エレファント
- エッセンス
- イブ
- ハグ
- ハグ・ドラッグ
- ラブ・ピル
- ラバーズ・スピード
- ロール
- スクービー・スナック
- スノーボール
- X
- XE
- XTC



エクスタシーをたどる

- 薬物使用と健康に関する全国調査によると、推定744,000人の12歳以上のアメリカ人が、エクスタシーを少なくとも1度は試したことがあると示しています。
- 「モニタリング・ザ・フューチャー」の調査によると、8年生の1.7パーセント、10年生の2.6パーセント、12年生の3.6パーセントがエクスタシーを使用したことがあると示しています。
- 多くのエクスタシー使用者は、マリファナ、アンフェタミン、コカイン、ヘロインを含む他の薬物を使用するようになります。



想像上のラブ・ピル

仮面を外す

エクスタシーは「ラブ・ピル」と呼ばれています。なぜなら、色や音、セックス中も含め肉体的な感覚を高めるからです。

しかし、この「ラブ・ピル」というイメージは嘘です。

エクスタシーには、しばしば他の幻覚剤が含まれており、人に現実ではないものを見せたり、感じさせたりします。これによって、人は気付かないうちに、恐ろしい、あるいは悲しい記憶に閉じ込められてしまうことがあります。

エクスタシーを摂取しない限り、レイヴ・パーティー自体は問題ありません。でも、一度始めると、やめるように忠告する人たちを愚かだと思うようになります。何か素晴らしいものを見つけたと信じるようになり、他の人たちがそれに反対するようなことを言うべきではないと思うようになります。

「エクスタシーが好きになったら、もう手遅れ—どんどんのめり込んでいくんだ。」
—パット

エクスタシーは人の感情に有害な影響を与える薬物です。その使用者はしばしば抑うつや混乱、激しい不安、偏執症*、精神異常といった心理的問題にさいなまれます。

* 偏執症：証拠や正当な理由もなく、他人に対する極度で不合理な不信感や恐れ



「運よく命は助かったけれど、トラウマの後に続く日々、月、そして年月を抱えています。それが私に与えた影響に、一生対処しなければなりません。ありとあらゆることを経験してきました。エクスタシーを服用した後、うつ、不安、ストレス、悪夢、ひどい頭痛など、いくつかのことが私に影響を与えました。

私は死にかけました。たった一晩、数錠［エクスタシー］を取って、アルコールを飲んだだけで。この薬物は本当に命取りです。死なずにすんで本当によかったと思います。この悪夢のような苦しみに四六時中さいなまれることがどれほど辛いことか、表現できません。汗びっしょりで目覚めるたびに、それがただの悪夢だったことにほっとして、神様に感謝します。そしていつかこの悪夢が消え去るようにと祈るのです。薬物で酔ったり*、『ハイ』になることくらい愚かなことはないと思います。」―メーガン

* 酔う：MDMAを摂取したときに感じる、陶酔感、興奮剤のような効果、感情的な効果

エクスタシーの使用が招く影響

エクスタシーは、身体の自然な警告システムを遮断します。使用者は、自分の身体の限界や許容範囲を超えてしまう危険性があります。

屋内や屋外のレイヴで見られるような、暑くて混雑した環境でエクスタシーを使用すると、極度の脱水症状や体温の上昇、筋肉の崩壊、腎不全、致命的な脳腫脹を引き起こす可能性があります。

研究によると、エクスタシーを使用した後、多くの人がうつ、集中力の問題、不安、攻撃性、イライラ感を報告しています。定期的に使用すると、睡眠障害、食欲不振、心臓病、衝動的な行動を引き起こす可能性があります。

服用してから数日、あるいは数週間後でさえ、使用者は混乱を感じたり、不安、または薬物への渇望を経験したりすることがあります。

短期的な影響

- 心拍数の増加とけいれん発作のリスク
- 血圧の上昇
- 腎不全や死に至る可能性のある体温の急激な上昇
- 抑制の低下（行動、感情、または決断に対するコントロールの低下）
- 安全でないセックスのリスク増加
- 偽りの愛情の感情
- 軽い幻覚
- 混乱
- 抑うつ
- 睡眠障害
- 不安になり、動揺する
- 偏執症
- 薬物への渇望
- 筋肉の緊張
- もうろうとした状態・激しい悪寒
- 無意識に歯を食いしばる
- 目のかすみ
- 吐き気と嘔吐



長期的な影響

- 思考、記憶、学習、睡眠、感情に影響を与える永続的な脳の損傷
- 神経細胞の突起部と末端部の退化
- 抑うつ、不安、記憶力の減退
- 睡眠障害
- セックスに対する興味の減退
- 脳出血
- 精神病
- 心不全

「エクスタシーは楽しくて、害のない薬物だと言っている人たちがたくさんいます。知らないのは怖いとしか言いようがありません。

5ヵ月の間に、私は夢を追いながらある程度責任を持って生きていた人から、何も気にしない人間になってしまいました。そして、ハイになればなるほど、暗く孤独な場所に沈んでいきました。眠りにつくと、悪夢を見て震えました。肌が青ざめ、頭がずきずき痛み、被害妄想を抱くようになり始めましたが、こんなことは別に普通のことだと思い、一切気にしないようにしていました。あの夜、自分は死にかけているんだと気付くまでは。

エクスタシーは、私の力、やる気、夢、友人、アパート、お金、そして何よりも私の正気を奪いました。私は毎日、自分の将来と健康を心配しています。私の前には多くの山が立ちはだかっていますが、私は登り続けるつもりです。なぜなら、私は幸運な人間の1人だからです。」―リン



エクスタシーに依存することはある？

エクスタシーには依存性があるのか？ 多くの人が、疲労感、食欲不振、うつ、集中力の低下といった離脱症状を報告しています。たとえ使用者が依存しなくても、4つの大きな危険があります。



危険その1：エクスタシーとして売られているものは、エクスタシー（MDMA）ではなく、有害な薬物と有毒物質の混合物である可能性があります。

危険その2：使用者はすぐに耐性をつけ、同じハイに達するためにさらに多くの薬物を必要とします。

用量が増えると、副作用の重症度も増加します。エクスタシーの影響が減少すると、多くの人がさらに危険な薬物に手を出します。

危険その3：エクスタシーの後遺症に対処するために、使用者はヘロインやコカインのような、より強い物質に頼ることがあります。実際、調査では、ほとんどのエクスタシー使用者はエクスタシーだけにとどまらず、他の薬物と組み合わせて使用するようになると示されています。

危険その4：楽しむためにエクスタシーが必要だと信じることで、人々はより頻繁にそれを取るようになります。これにより、彼らはレイヴやパーティー以外でもそれを使用するようになるかもしれません。他の興奮剤のように、使用者は不快な影響を経験してもエクスタシーを取り続けます。



科学的な情報

エクスタシーに関してこれまでに非常に多くの研究が行われています。それらは：

- エクスタシーは肝不全を引き起こす可能性がある。医師が肝臓移植で救おうとしたにもかかわらず、14歳の少女が死亡。
- エクスタシーは、しばしば殺鼠剤のような危険な物質と混ぜられている。
- 若者たちは、エクスタシーの使用に関連した脱水症状、極度の疲労、心臓発作で死亡。
- エクスタシーは、腎臓や脳に障害をもたらし、脳に損傷を引き起こすことがある。
- 少量のエクスタシーでさえ神経系を毒し、永続的な損傷を引き起こす可能性がある。

薬物にまつわる誇大宣伝を見抜く

薬物の「肯定的」イメージは、主に映画や音楽がそれらを魅力的に見せることから来ています。

新しい薬物が最初に現れると、人々はそれが危険だとは通常考えません。手遅れになるまでは。害が明らかになる頃には、多くの人がすでにその薬物は「安全」または「無害」だという誤った考えを信じています。

エクスタシーは、その種の誇大広告の良い例です。あるメディア観察者は「それはまるで、どこかの賢いマーケティングの天才が考え出したキャンペーンのようだ」と述べました。



「エクスタシーのせいで頭がおかしくなった。ある日、リンゴをかじるような感じでガラスのコップにかじりついたことがあった。口の中がガラスの破片でいっぱいになった時、やっと自分が何をしているのかに気付いた。別の時に、私は1時間、布を食いちぎっていた。」
—アン

薬物の売人がよく使う誘い文句

十代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55パーセントが「周りの雰囲気に流された」と回答しています。彼らには「ダサい」と思われたくない、「カッコよく見られたい」、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友だちのような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ち掛けてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。

彼らは、エクスタシーを使えば「人気者になれる」とか「女の子や男の子をゲットできる」と言うでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。

真実を知ってください：薬物

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量が違うだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人のマインドにも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物は、全ての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。


本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。

なぜ人は薬物を取るのでしょう？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避、またはリラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかなりません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに20以上の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。



新しい薬物が次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっています。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

参照文献：

この小冊子をまとめるのに使われた参照文献：jp.DrugFreeWorld.org/refs

写真：7ページ：stockxpert.com；18ページ：stockxpert.com、bigstockphoto.com

知っておくべき真実

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、フェンタニル、危険ドラッグ、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤 / 吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

無料オンライン・コースを行う、または地域の薬物のない世界支部とつながるには、jp.DrugFreeWorld.org にアクセスしてください

薬物のない世界のための財団

jp.DrugFreeWorld.org • info@drugfreeworld.org

1 (888) 668-6378 • 1 (818) 952-5260

この小冊子をダウンロードするには ここをスキャン

© 2025年 Foundation for a Drug-Free World. 不許複製。Truth About Drugs および薬物のない世界のための財団のロゴは Foundation for a Drug-Free World が所有しており、使用にあたってはその許可が必要です。#S001562 - Japanese